

## 上田将大 | うへだ・しょうだい

東レ株式会社 医療材技術部



## 上田将大

—  
2018年度  
大学院工学科学研究科  
博士前期課程  
先端ファイブ科学専攻 修了



Fig.1——業務の様子



Fig.2——試合のワンシーン

今役立っている、京都工芸繊維大学での経験

私は学部時代、勉学に加えてアメリカンフットボール部の活動に打ち込み、同輩とともに切磋琢磨しました。シーズンに向けて自らの能力向上はもちろん、チーム力強化のためのルール策定やスケジュールの考案など多面的に活動をしていた経験は、社会人となった今でも、チームで業務を進める上で役立っていると感じます。

研究室に配属されてからは、シミュレーションから実験までさまざまな手法で研究する機会に恵まれました。そのような環境のもとで、一つひとつ原理原則を理解し、追求していく力を身に付けることができました。また、企業との共同研究ができる環境があり、企業の考え方を学べる貴重な経験ができました。さらに、所属していた研究室では、留学生を積極的に受け入れ、ゼミでは英語で発表するなど、国際学会での発表やその他の国際交流イベントにも参加する機会があったため、英語力の向上や多様性への理解を深められました。これらの経験は、多様性が求められる昨今において、大きく役立っています。

大学での研究を生かし、医療機器の開発を担当

私が入社した東レは、「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」という企業理念を掲げています。その企業理念に違わず、絶えず画期的で魅力ある素材・製品を出し続けているところに惹かれ、入社を決めました。

大学時代は、スポーツ時に着用するコンプレッションウェアについて研究していました。具体的には、着圧を人体へ与えることで、筋肉へ作用する効果のメカニズムの解明やパフォーマンスの向上、肉離れといった怪我を減らすための着圧の最適化を目指し、コンピュータによるシミュレーションと実験の両方からアプローチする研究を行っていました。

人体に関わる研究をしていたことから、入社後は血管内を治療するカテーテルの開発部署に配属され、カテーテルの新製品開発業務を担当しました。共同で開発をしている先生方の要望を聞き、そこに隠されている潜在的なニーズを科学的な面から論理的に導き、製品設計に落とし込むための力は、大学時代に培った知識や経験が役立っていると感じます。最近では他製品の生産立ち上げ業務も担当させてもらえるようになり、さまざまな業務に携わっていることに大きなやりがいを感じています。

進学希望者へのメッセージ

後輩の皆さんには、少しでも興味を持ったことがあれば自ら行動して実行してほしいと思います。大学生活では社会人よりも時間を確保しやすく、行動の選択肢がとても幅広いです。しかし、高校時代とは打って変わって自発的な行動が求められ、受け身でいると何も経験できずに大学生活が終了してしまいます。大学には学生の挑戦をサポートする体制が整っているので、少しでも興味があることは情報を収集し、失敗を恐れずに自らどんどん行動して行ってほしいと思います。どのような行動であろうと、それはかけがえのない経験となり、将来の糧になっていくと思います。

アメフト部の活動からスポーツ用ウェアの研究まで、  
全ての経験が製品開発の仕事に生きている。